

IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information
Server Hierarchical Data
ステージ
メッセージ・リファレンス**

IBM

IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information
Server Hierarchical Data
ステージ
メッセージ・リファレンス**

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

目次

Hierarchical Data ステージのメッセージ	1	付録 D. ご意見の送付方法	25
付録 A. 製品のアクセシビリティ	19	特記事項および商標	27
付録 B. IBM の窓口	21	索引	33
付録 C. 製品資料へのアクセス	23		

Hierarchical Data ステージのメッセージ

このメッセージ・リファレンスには、Hierarchical Data ステージのさまざまなコンポーネントから返されるメッセージが含まれています。

Hierarchical Data ステージがインストールされているオペレーティング・システムの機能を十分に理解している必要があります。このメッセージ・リファレンスに記載された情報を使用して、エラーまたは警告を識別し、適切なリカバリー・アクションを使用して問題を解決します。この情報はまた、メッセージが生成されてログに記録された場所を理解するためにも使用できます。

パラレル・エンジンは、インストール中、ファイルの書き込みまたは読み取り中、および一般的な製品使用中に発生したエラーに関するメッセージを生成します。メッセージ情報は、エラーのタイプを記述し、そのエラーの発生理由を説明し、それらに対処する解決策を提示します。

各メッセージに、接頭部 (IIS) とメッセージ番号で構成されるメッセージ ID があります。メッセージは、メッセージ番号に基づいて番号順にリストされています。メッセージ・タイプには、エラー、警告、および通知の 3 種類があります。E で終わるメッセージ ID は、エラー・メッセージです。W で終わるメッセージは警告を示します。I で終わるメッセージは通知メッセージを示します。

メッセージ中にある {0} 記号は、コードによって返される変数を示しています。この変数は、生成されるメッセージに固有の値またはプロパティを表します。

エラーの詳細は、InfoSphere® DataStage® and QualityStage® ディレクター・クライアントのログ・ファイルで確認できます。

CDIER0001E XML 名前空間は、スキーマで定義されませんでした。名前={名前空間 URI 名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: XML パーサー・ステップが、XML ソース内の示された場所で、スキーマで定義されていない名前空間 URI を検出しました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 名前空間 URI を、スキーマで定義されている URI に変更します。
- 名前空間 URI をスキーマに追加します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0002E XML エレメントは、スキーマで定義されませんでした。名前={エレメント名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: XML パーサー・ステップが、XML ソース内の示された場所で、スキーマで定義されていないエレメントを検出しました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- エレメントを、スキーマで定義されているエレメントに変更します。
- エレメントをスキーマに追加します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0003E XML タイプは、スキーマで定義されませんでした。 名前={タイプ名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: XML パーサー・ステップが、XML ソース内の示された場所で、スキーマで定義されていない XML タイプを検出しました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- タイプを、スキーマで定義されているタイプに変更します。
- タイプをスキーマに追加します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0004E XML 属性は、スキーマで定義されませんでした。 名前={属性名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: XML パーサー・ステップが、XML ソース内の示された場所で、スキーマで定義されていない属性を検出しました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 属性を、スキーマで定義されている属性に変更します。
- 属性をスキーマに追加します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0006E XML 入力ストリームを作成できません。 ステップ={ステップ名}、原因={エラーの原因}。

説明: XML パーサー・ステップが、XML ソースの入力ストリームを作成できませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0007E 入力を読み取りでエラーが発生しました。 言語={XML / JSON}、原因={エラーの原因}、システム ID={XML のシステム ID}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: Streaming API for XML (StAX) パーサーがエラーを返しました。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。特に、無効文字や、エレメント区切り文字のエラーなど、XML の構造に影響を与える問題を探してください。

CDIER0008E この XML 属性の値は、固定値でなければなりません。 属性名={XML 属性名}、固定値={必要な値}、検出値={ソースで指定された値}、項目名={XML 項目名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 示された場所にある固定の XML 属性に、必要な値以外の値があります。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 属性値を正しい値に変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0009E 必須の XML 属性がありません。 属性名={欠落している XML 属性名}、項目名={XML エレメント名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 必須の XML 属性が、エレメントに対して指定されていませんでした。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 属性を XML に追加します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0010E コンテンツ・タイプが「all」のエレメントに、1 つ以上の必須の XML エレメントがありません。親エレメントの名前={コンテンツ・タイプが「すべて」のエレメント}、欠落しているエレメント={欠落しているエレメントの名前}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 1 つ以上の必須の XML エレメントが、xs:all コンテンツ・タイプを持つエレメントに対して指定されていません。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 必須のエレメントを XML に追加します。
- エレメントが必須ではなくなるようにスキーマを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0012E このデータ・タイプに指定された値は無効です。項目値={指定された値}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、名前={この値が指定されているエレメントまたは属性の名前}、ステップ={ステップ名}、原因={失敗の原因}。

説明: 示された場所にあるエレメントまたは属性に、そのエレメントまたは属性のデータ・タイプでは無効な値があります。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- データ・タイプに有効な XML 値を指定します。
- スキーマで、エレメントまたは属性のデータ・タイプを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0013E この ID 属性に重複する値が指定されました。値={指定された値}、項目名={エレメントの名前}、行={ソース内の行番号}、列={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={エラーが発生したソース}

説明: 示された場所にある、固有でなければならない ID が、複数回使用されました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- ID 値を変更します。
- ID が固有である必要がなくなるようにスキーマを更新します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0014E エレメントにコンテンツがある場合、xsi:nil 属性値は true に設定できません。データを含むエレメントに xsi:nil='true' を割り当てようとしたため、エラーが発生しました。値={エレメントの値}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、項目名={値が指定されているエレメントの名前}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: エレメントにコンテンツがある場合、xsi:nil 属性は true に設定できません。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 属性値の割り当て xsi:nil='true' を削除します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0015E この項目のデータは、データ・タイプに準拠しません。ステップ={ステップ名}、項目名={エレメントの名前}、宛先タイプ={エレメントのデータ・タイプ}、値={指定された値}、行={ソース内の行番号}、列={ソース内の列番号}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: エレメントに対して指定された値が、そのエレメントのデータ・タイプの要件に従っていません。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- データ・タイプの要件に従うよう値を変更します。
- スキーマで、エレメントのデータ・タイプを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0016E 空白以外の文字は、XML データの大/小文字が混合していないコンテンツでは無効です。項目名={エレメントの名前}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}。

説明: 大/小文字混合ではない XML データでは、エレメントの間には空白文字のみを指定できます。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 空白文字ではない文字を削除します。
- スキーマで、このエラーが発生したエレメントが含まれているエレメントについて、mixed 属性を true に設定します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0017E 予期しない開始エレメント名または終了エレメント名が検出されました。行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、実際の名前={XML ソースで見つかったエレメント名}、期待された名前={必要なエレメント名}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 示された場所にある XML データがスキーマの構造と一致しません。開始エレメントと終了エレメントが正しい順序になっていません。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 開始エレメントと終了エレメントが正しい順序に指定されるように更新します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0018E 開始エレメント名または終了エレメント名がありません。行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、項目名={必要なエレメント名}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 示された場所にある XML データがスキーマの構造と一致しません。必要な開始エレメントまたは終了エレメントが指定されていません。

ユーザーの処置: XML エレメント・ソースの場所を調

べて問題の原因を特定した後、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 必要な開始エレメントまたは終了エレメントを指定します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0019E 終了エレメント名がありません。項目名={必要な終了エレメント名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 示された場所にある XML データがスキーマの構造と一致しません。終了エレメントが必要ですが、他の XML データが検出されました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 必要な終了エレメントを指定します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0020E 開始エレメント名がありません。項目名={必要な終了エレメント名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 示された場所にある XML データがスキーマの構造と一致しません。開始エレメントが必要ですが、他の XML データが検出されました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 必要な開始エレメントを指定します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0021E 予期しないエレメントが検出されました。検出された項目={予期しないエレメント名}、行番号={ソース内の行番号}、列番号={ソース内の列番号}、期待されたイベント名={この場所では有効な XML 名のセット}、ステップ={ステップ名}、ソース={ソース・テキストまたはファイル名}。

説明: 予期しないエレメントが、XML ソース内の示された場所で検出されました。この場所には、複数のエレメントを指定できます。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 有効な XML エLEMENT のリストから、ELEMENT を指定します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0022E NULL 可能でないELEMENTが

`xsi:nil='true'` に設定されました。項目名={ELEMENT の名前 }、行番号={ソース内の行番号 }、列番号={ソース内の列番号 }、ステップ={ステップ名 }、ソース={ソース・テキストまたはファイル名 }。

説明: スキーマでは、このELEMENT を nil に設定できないと指定されていますが、属性は `xsi:nil='true'` です。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- ELEMENT の nil 属性を削除します。
- ELEMENT を nil に設定できるように、スキーマを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0023E 配列ELEMENTの数が指定された最大数を超えました。項目名={XML ソース内のELEMENT名 }、ELEMENTの数={XML で検出されたELEMENTの数 }、許される最大数={スキーマ内の `maxOccurs` で定義されたELEMENTの最大数 }、行番号={ソース内の行番号 }、列番号={ソース内の列番号 }、ステップ={ステップ名 }、ソース={ソース・テキストまたはファイル名 }。

説明: リストの XML ソース内にあるELEMENT の数が、`maxOccurs` 属性に指定された値より大きくなっています。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- XML ソースに指定する配列ELEMENT の数を少なくします。
- スキーマで、`maxOccurs` 属性に指定された値を大きくします。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0024E 配列ELEMENTの数が指定された最小数よりも少ない。項目名={XML ソース内のELEMENT名 }、ELEMENTの数={XML で検出されたELEMENTの数 }、許される最小数={スキーマ内の `minOccurs` で定義されたELEMENTの最小数 }、行番号={ソース内の行番号 }、列番号={ソース内の列番号 }、ステップ={ステップ名 }、ソース={ソース・テキストまたはファイル名 }。

説明: リストの XML ソース内にあるELEMENT の数が、`minOccurs` 属性値に指定された値より小さくなっています。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- XML ソースに指定する配列ELEMENT の数を多くします。
- スキーマで、`minOccurs` 属性に指定された値を小さくします。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0025E 必須項目がありません。項目名={ELEMENT または属性の名前 }、ステップ={ステップ名 }。

説明: 指定された項目は必須ですが、欠落しています。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 前のステップ、前の InfoSphere DataStage ステージ、または外部ソースの中で、元の入力値を変更します。
- 「マッピング」 ページで、値が意図したソースからのものになるようにします。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0026E この項目のデータは、項目ファセットに準拠しません。ソース・タイプ={ELEMENT または属性のタイプの名前 }、項目名={ELEMENT または属性の名前 }、ファセット={XML 内の値が一致しないファセットの名前 }、値={ファセットと一致しない XML 内の値 }、行={ソース内の行番号 }、列={ソース内の列番号 }、ステップ={ステップ名 }、ソース={ソース・テキストまたはファイル名 }。

説明: XML ソース内の示された場所にあるELEMENT

または属性に指定された値が、データ・タイプについてスキーマで定義されたすべてのファセットには準拠しません。ファセットは、length、minLength、maxLength、minExclusive、minInclusive、maxInclusive、maxExclusive、totalDigits、fractionDigits、whiteSpace、pattern、または enumeration です。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- スキーマで指定されているデータ・タイプのファセットに準拠するように XML ソースを変更します。
- スキーマで、ファセットを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0027E NULL 可能でないエレメントが
xsi:nil='true' に設定されました。項目名={
エレメントの名前 }、ステップ={ステップ
名 }。

説明: スキーマでは、このエレメントを nil に設定できないと指定されていますが、属性は xsi:nil='true' です。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- エレメントの nil 属性を削除します。
- エレメントを nil に設定できるように、スキーマを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0028E 開始エレメント名がありません。実際の名
前={XML ソースで見つかったエレメント
名 }、期待された名前={必要な終了エレメ
ント名 }、行番号={ソース内の行番号 }、
列番号={ソース内の列番号 }、ステップ={
ステップ名 }、ソース={ソース・テキスト
またはファイル名 }。

説明: 示された場所にある XML データがスキーマの構造と一致しません。開始エレメントが必要ですが、他の XML データが検出されました。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 必要な開始エレメントを指定します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0029E 配列エレメントの数が指定された最小数よ
りも少ない。項目名={XML ソース内のエ
レメント名 }、エレメントの数={入力で検
出されたエレメントの数 }、必要な最小数
={スキーマ内の minOccurs で定義された
エレメントの最小数 }、ステップ={ステッ
プ名 }。

説明: リストの XML ソース内にあるエレメントの数が、コンポーザー文書ルート・スキーマ内で minOccurs 属性に指定された値より小さくなっています。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- XML ソースに指定する配列エレメントの数を多くします。
- スキーマで、minOccurs 属性に指定された値を小さくします。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0030E 配列エレメントの数が指定された最大数を
超えました。項目名={エレメント名 }、エ
レメントの数={入力で検出されたエレメン
トの数 }、許される最大数={スキーマ内の
maxOccurs で定義されたエレメントの最
大数 }、ステップ={ステップ名 }。

説明: リストの XML ソース内にあるエレメントの数が、コンポーザー文書ルート・スキーマ内で maxOccurs 属性に指定された値より大きくなっています。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- XML ソースに指定する配列エレメントの数を少なくします。
- スキーマで、maxOccurs 属性に指定された値を大きくします。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールのアクションを変更します。

CDIER0031E 項目にスキーマで指定された固定値があり
ません。項目名={固定の XML 属性名 }、
実際の値={入力で検出された値 }、固定値
={スキーマからの必須の固定値 }、ステッ
プ={ステップ名 }。

説明: 固定の XML 属性に指定された値が、コンポーザー文書ルート・スキーマで定義された固定値ではありません。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- XML ソースで値を固定値に変更します。
- スキーマで固定値を変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0032E 抽象派生タイプがエレメント・タイプとして使用されました。項目名={XML ソース内のエレメント名 }、抽象タイプ={抽象タイプ名 }、行番号={ソース内の行番号 }、列番号={ソース内の列番号 }、ステップ={ステップ名 }、ソース={ソース・テキストまたはファイル名 }。

説明: 抽象タイプが、示された場所にある XML 派生タイプの実際のタイプとして使用されました。

ユーザーの処置: パーサー・ステップのマッピングで、タイプの割り当てを、抽象タイプではないタイプに変更してください。

CDIER0033E JSON データに予期しない文字があります。項目名={JSON ソース内のエレメント名 }、値={予期しない文字 }、行番号={ソース内の行番号 }、列番号={ソース内の列番号 }、ステップ={ステップ名 }、ソース={ソース・テキストまたはファイル名 }。

説明: 示された場所にある JSON データに予期しない文字が見つかりました。

ユーザーの処置: JSON ソースを調べて問題の原因を特定した後、以下の作業を 1 つ以上実行してください。

- JSON 入力データで、予期しない文字を削除します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0101E この出力ファイルは作成できません。出力ファイル={出力ファイルのパス }、例外={失敗の原因 }。

説明: JSON コンポーザーが出力ファイルを作成できませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0102E データは、ターゲット項目タイプに対して正しくなく、変換できません。ターゲット・タイプ={書き込まれる項目のターゲット・タイプ }、項目名={書き込まれるエレメントの名前 }、値={入力で検出された値 }、ステップ={ステップ名 }。

説明: 指定された値は、コンポーザー文書ルート・スキーマで定義されたターゲット・タイプでは無効です。

ユーザーの処置: ソースを調べて問題の原因を特定した後、以下の作業を 1 つ以上実行してください。

- 値を、指定されたターゲット・タイプで使用できる値に変更します。
- 指定された値が、ターゲット・タイプに対して有効になるように、文書ルート・スキーマを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0103E データは、このファセットに準拠しません。タイプ={タイプの名前 }、値={ファセットと一致しない値 }、ファセット={XML 内の値が一致しないファセットの名前 }、ステップ={ステップ名 }。

説明: XML ソース内のエレメントまたは属性に指定された値が、タイプについてスキーマで定義されたすべてのファセットには準拠しません。ファセットは、length、minLength、maxLength、minExclusive、minInclusive、maxInclusive、maxExclusive、totalDigits、fractionDigits、whiteSpace、pattern、または enumeration です。

ユーザーの処置: XML ソースを調べて問題の原因を判別してから、以下のいずれかの作業を実行してください。

- スキーマに指定されているタイプのファセットに準拠するように値を変更します。
- スキーマで、ファセットを変更します。
- 「構成」 > 「検証」 ページで、エラーが無視されるように検証ルールアクションを変更します。

CDIER0202E XML スキーマのロード中に内部の致命的 DOM エラーが発生しました。{失敗の原因 }。

説明: 誤った形式のスキーマなどの Document Object Model の問題が原因で、XML スキーマを規則ライブラリーにインポートできませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する詳細を使用して、問題を修正してください。

CDIER0303E ターゲット項目タイプに無効なデータで、変換できません。ステップ={ステップ名 }、ターゲット項目={値が割り当てられている項目の名前 }、ソース・タイプ={ソース・タイプの名前 }、ターゲット・タイプ={ターゲット・タイプの名前 }、値={ファセットと一致しない値 }

説明: 指定された値は、割り当て先の項目のターゲット・タイプでは無効です。

ユーザーの処置: ソースを調べて問題の原因を特定した後、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 値をそのターゲット・タイプで有効な値に変更します。詳しくは、IBM Knowledge Center または「*IBM InfoSphere Information Server XML 変換ガイド*」の『InfoSphere Information Server』セクションの Hierarchical Data ステージについての説明を参照してください。
- マッピングを調べて、値が意図したソースから取得されるようにします。
- ターゲット・タイプを、指定された値に対して有効なタイプに変更します。

CDIER0304E ソース・タイプをターゲット・タイプに変換できません。ステップ={ステップ名 }、ターゲット項目={書き込み先の項目の名前 }、ソース・タイプ={ソース・タイプの名前 }、ターゲット・タイプ={ターゲット・タイプの名前 }。

説明: このデータは、項目のターゲット・タイプでは無効です。

ユーザーの処置: ソース・タイプとターゲット・タイプを調べて問題の原因を判別してから、ソース・タイプまたはターゲット・タイプを変更してください。

CDIER0305E ファセット・タイプをターゲット・タイプに変換できません。ステップ={ステップ名 }、ターゲット項目={ターゲット項目の名前 }、ターゲット・タイプ={ターゲット・タイプの名前 }、ファセット={値が一致しないファセットの名前 }、値={ファセットと一致しない値 }。

説明: 指定された値は、ターゲット・タイプについてスキーマで定義されたすべてのファセットには準拠しません。ファセットは、length、minLength、maxLength、minExclusive、minInclusive、maxInclusive、maxExclusive、totalDigits、fractionDigits、whiteSpace、pattern、または enumeration です。

ユーザーの処置: ソースを調べて問題の原因を特定した

後、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 値をそのファセットに準拠する値に変更します。
- 指定された値がターゲット・タイプのファセットに準拠するようにスキーマを変更します。

CDIER0307E データが列定義に準拠していません。ステップ={ステップ名 }、ターゲット項目={ターゲット項目の名前 }、ターゲット・タイプ={ターゲット・タイプの名前 }、ファセット={値が一致しないファセットの名前 }、値={ファセットと一致しない値 }。

説明: 指定された値は、割り当て先の列のタイプでは無効です。

ユーザーの処置: 値のソースを調べて問題の原因を特定した後、以下のいずれかの作業を実行してください。

- 値をその列定義に準拠する値に変更します。
- スキーマで、指定された値が定義に準拠するようターゲット・タイプの列定義を変更します。

CDIER0401E XML の構文解析中にエラーが発生しました。原因={エラーの原因 }。

説明: 階層データ・ステージが XML ストリームを処理できませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0402E ファイルを読み取ることができません。{エラーの原因 }。

説明: 階層データ・ステージがファイルを読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0403E ファイルに書き込むことができません。{エラーの原因 }。

説明: 階層データ・ステージがファイルに書き込むことができませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0404E XSLT 例外を検出しました。原因={エラーの原因 }。

説明: XSLT フィルターがデータを構文解析できませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用し

て、XSLT ソースを変更することで問題を修正してください。

CDIER0405E XML または JSON の構文解析例外を検出しました。{エラーの原因}。

説明: XSL ステージが JSON 内部データ構造または XML 内部データ構造を構文解析できませんでした。

ユーザーの処置: 例外は内部エラーです。

CDIER0406E SOAP 例外を検出しました。{エラーの原因}。

説明: SOAP (Simple Object Access Protocol) 操作を完了できませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0407E XQuery 例外を検出しました。{エラーの原因}。

説明: XQuery フィルターがデータを構文解析できませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、照会を変更することで問題を修正してください。

CDIER0408E 出力ステップで、NULL 可能でない出力リンク列に、NULL 値を割り当てようとして、列={列名}。

説明: NULL 値が、NULL 可能でない出力列に書き込まれました。

ユーザーの処置: 値を変更するか、出力列が NULL 可能であると指定してください。

CDIER0409E アセンブリーのテストで使用されるコンマ区切りの定様式ファイルの入力データが、入力スキーマと一致しません。ステップ={ステップ名}、列={列名}。

説明: このエラーは内部エラーです。

ユーザーの処置: ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、

IBM Knowledge Center の InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、IBM Knowledge Center のジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

CDIER0410E ステップ={ステップ名} でエラーがありました。原因={エラーの原因}。

説明: このエラーは内部エラーです。

ユーザーの処置: ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、IBM Knowledge Center の InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、IBM Knowledge Center のジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

CDIER0411E 重複するキー値を検出しました。ステップ={ステップ名}、キー値={キー値}。

説明: 垂直ピボット・ステップに重複するキーが含まれています。

ユーザーの処置: 別のキー値を指定してください。

CDIER0412E データの生成が失敗しました。

説明: ステップが、内部エラーが原因でサンプル・データを生成できませんでした。

ユーザーの処置: ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを

.dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、IBM Knowledge Center の InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、IBM Knowledge Center のジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

CDIER0501E レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで作成された式が失敗しました。{失敗の原因}。

説明: レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで、実行時に式を評価したときに式が失敗しました。

ユーザーの処置: 式と式の入力値が有効であることを確認してください。

CDIER0502E レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで作成された式が失敗しました。{失敗の原因}。

説明: レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで、実行時に、式のために生成された関数を実行したときに式が失敗しました。

ユーザーの処置: 式と式の入力値が有効であることを確認してください。

CDIER0503E レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで作成された式が失敗しました。{失敗の原因}。結果タイプ={式の結果タイプ}。

説明: レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで、式が予期したとおりにプール値を返しませんでした。

ユーザーの処置: 式を調べて、式が予期した値を返さなかった理由を判別してください。

CDIER0504E 式のコンパイルが失敗しました。原因={失敗の原因}。

説明: レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで、式をコンパイルできませんでした。

ユーザーの処置: 式を調べて、エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0505E 無効な式。マッピング={無効なマッピング}、原因={失敗の原因}。

説明: レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで、式が無効です。

ユーザーの処置: 式を調べて、エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0601E ディレクトリーを作成できません。{失敗の原因}。

説明: ステップが出力ファイルのディレクトリーを作成できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0602E ディレクトリー名はディレクトリーではありません。名前={ディレクトリーの名前}。

説明: 出力ファイルのディレクトリーに指定された名前がディレクトリーではありません。

ユーザーの処置: 存在するディレクトリーの名前を指定してください。

CDIER0603E ステップが {書き込むことができないディレクトリー} ディレクトリーに書き込むことができません。

説明: ステップが出力ファイルに指定されたディレクトリーに書き込むことができません。

ユーザーの処置: 指定したディレクトリーが存在すること、およびそのディレクトリーに書き込むための許可を持っていることを確認してください。

CDIER0604E ステップが {削除できないファイル} ファイルを削除できません。

説明: ステップが、指定された出力ファイルを削除できません。

ユーザーの処置: 指定したファイルを調べて、削除できない理由を判別してください。

CDIER0605E ステップが {作成できないファイル} ファイルを作成できません。

説明: ステップが、指定された出力ファイルを作成できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0606E ステップが {ライターを作成できないファイル} ファイルに書き込むことができません。理由: {失敗の原因}。

説明: ステップが、指定された出力ファイルに書き込むことができません。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0801E XML 入力ファイルの URL の値がストリングではありません。値={ステップ名}。

説明: ファイル URL で渡された値がストリング・データ・タイプの値ではありませんでした。

ユーザーの処置: 値を、ストリング・データ・タイプの値に変更してください。

CDIER0802E アセンブリーに {エラーの数} 個のエラーがあります。エラーを解決するには、アセンブリーを編集します。

説明: ステップにエラーがあります。

ユーザーの処置: エラーを調べて、アセンブリーを編集し、エラーを削除してください。

CDIER0803E ステップ {ステップ名} で、定数値 {定数値} には、{ターゲット項目} ターゲット項目の {ターゲット・タイプ} ターゲット・タイプとの互換性がありません。

説明: 式またはマッピングに、そのターゲット・タイプと一致しない定数値があります。

ユーザーの処置: 定数値を、項目のターゲット・タイプとの互換性がある値に変更してください。

CDIER0804E ステップ {ステップ名} で、{リンク名} リンクに列がありません。

説明: ステップの入力リンクに、一致する列がありません。

ユーザーの処置: 示された場所で、リンクを削除するか列を追加してください。

CDIER0820E {パーティション番号} パーティションに使用可能なスクラッチ・スペースがありません。

説明: パーティションに使用可能なスクラッチ・スペースがありません。

ユーザーの処置: 使用可能なスペースを増やしてください。パーティションの未使用のスクラッチ・ファイルを

削除して、スクラッチ・ディレクトリーをクリーンアップしてください。

CDIER0821E データがディスクに書き込まれませんでした。理由: {失敗の原因}。ディスク・ベースのサポート。

説明: ディスク・ベースのサポートのためにデータをディスクに書き込むことができません。これは、階層結合ステップの最適化タイプとして選択されています。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください。

CDIER0831E {キー・フィールドの名前} キー・フィールドの値が {データ・タイプの名前} データ・タイプでは無効です。

説明: データベース内のキー・フィールドのデータ・タイプが float または double のいずれかであり、値は POSITIVE_INFINITY、NEGATIVE_INFINITY、または NaN です。

ユーザーの処置: 無効な値をフィルターに掛けて除外するか、変更してください。

CDIER0832E 明示的な長さが {キー・フィールドの名前} キー・フィールドは、32672 文字に切り捨てられました。この制限を超える値は比較されません。キー項目名={キー・フィールドの名前}。

説明: 明示的な長さがキー・フィールドに対して指定されていません。

ユーザーの処置: 明示的な長さをキー・フィールドに追加するか、メッセージを無視してください。

CDIER0833E 再定義スキーマ {欠落しているスキーマ・ファイルのリスト} をスキーマ・ライブラリー・マネージャーにインポートする必要があります。

説明: 再定義するスキーマの 1 つ以上のファイルが欠落していて、インポートする必要があります。

ユーザーの処置: 欠落しているスキーマ・ファイル (*.xsd) をスキーマ・ライブラリー・マネージャーにインポートしてください。

CDIER0834E ステップ {ステップ名} で、{書き込み可能ではない親カーソルを持つ項目} 項目の親カーソルは書き込み可能ではありません。

説明: このエラーは内部エラーです。

ユーザーの処置: ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、IBM Knowledge Center の InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、IBM Knowledge Center のジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

CDIER0835E ステップ {ステップ名} で、**Hierarchical Data** ステージは値 {以前に書き込まれた値} を {既にかき込まれているスカラー・エレメント} スカラー・エレメントにかき込もうとしましたが、そのエレメントは既に値 {現行値} を持っています。**ListToGroup** が関係するマッピング・エラーの可能性がります。スカラー・エレメントの親リスト・エレメントは、{スカラー・エレメントの親リスト・エレメント} です。

説明: 階層データ・ステージが、既に値が割り当てられているスカラー値を上書きしようとした。

ユーザーの処置: ステップの「出力」ページで、指定したスカラー・エレメントが「リストからグループ」オプションの影響を受けるかどうかを判断してください。このオプションが使用されている場合、項目に対する変更を元に戻すか、別の方法で項目を変更しなければならない可能性があります。

CDIER0841E {スイッチ・ステップ} **スイッチ・ステップ**で、{無効な入力タイプ} **入力タイプ**は、マップ先の式に対して無効です。

説明: レコードのフィルタリングのスイッチ・ステップで式にマップされている入力タイプは、その式では無効です。

ユーザーの処置: 式または入力タイプを変更してください。

CDIER0901E **REST** ステップが、**REST** 要求の作成時にクラス {Java クラス名} の **NULL** オブジェクトを検出しました。

説明: REST ステップ内の HTTP 要求に、無効な **NULL** 値が含まれています。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、「ログ・レベル」プロパティを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. ジョブ・ログを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0902E **REST** ステップが、**REST** 要求でサポートされない **MIME** タイプ {MIME タイプ} セットを検出しました。

説明: HTTP 要求本体に指定された MIME タイプは、REST ステップではサポートされていません。

ユーザーの処置: REST ステップの「要求」ページで、HTTP 要求でサポートされる MIME タイプを指定してください。

CDIER0904E **REST** ステップが、データ項目に対して **予期しないタイプ** {実際のデータ・タイプ} を検出しました。このデータ項目は **タイプ** {予期されたデータ・タイプ} と予期されています。

説明: REST ステップが、予期しないデータ・タイプのデータ項目を検出しました。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、「ログ・レベル」プロパティを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. ジョブ・ログを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM

Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0905E REST ステップは、サイズが {実際のデータ・サイズ} の、サポートされるサイズ制限 {データ・サイズの最大制限} を超える大きい入力データ項目を検出しました。

説明: REST ステップの入力データに、サポートされる最大サイズを超える項目が含まれています。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、「ログ・レベル」プロパティを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. ジョブ・ログを収集して IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、機能拡張を要求してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0906E REST ステップがファイル {ファイル名} を読み取ることができません。

説明: REST ステップが、指定されたファイルを読み取ることができません。

ユーザーの処置: REST ステップが含まれているジョブを実行する InfoSphere DataStage ユーザーが、ファイルを読み取るための特権を持っていることを確認してください。

CDIER0907E REST ステップがファイル {ファイル名} を検出できません。

説明: REST ステップが、指定されたファイルを検出できません。

ユーザーの処置: 指定したファイルが存在すること、およびファイルの正しいファイル・パスが指定されていることを確認してください。

CDIER0911E REST ステップが、REST 応答の作成時にクラス {クラス名} の NULL オブジェクトを検出しました。

説明: REST ステップが、HTTP 応答を処理しようとしたときに無効な NULL 値を検出しました。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. ジョブ・ログを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0913E REST ステップが、REST 応答を保存するための一時ファイルを作成できません。原因={エラーの原因}。

説明: REST ステップが HTTP 本体をファイルに保存できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの作業を実行してください。

- REST ステップの「応答」ページで「本体をファイルとして保存」が選択されている場合、ファイルの指定されたパスが正しく、ディレクトリー内のファイルに対する特権があるようにしてください。
- REST ステップの「応答」ページで「本体をラージ・オブジェクトとして渡す」が選択されている場合、指定されたディレクトリー内のファイルに対する特権があるようにしてください。

CDIER0914E コンテンツ・タイプ {コンテンツ・タイプ} の REST 応答内に本体がありません。

説明: REST ステップが HTTP 応答で HTTP 本体を検出できませんでした。HTTP サーバーはデータを送信しませんでした。

ユーザーの処置: REST ステップで、「構成」 > 「一般」ページに正しい URL が指定されていることを確認してください。

正しい URL が指定されている場合、以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. 名前にストリング `_org.apache.http.wire_` が含まれているトレース・ファイルを探して、HTTP サーバーによって返された HTTP 応答が予期したとおりであるかどうかを確認します。

CDIER0915E HTTP 応答の構文解析中に、REST ステップがエラー {エラーの原因} を検出しました。

説明: REST ステップが、示された理由で HTTP 応答を構文解析できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. すべてのジョブ・ログを収集し、名前にストリング `_org.apache.http.wire_` が含まれているトレース・ファイルを探して、HTTP サーバーによって返された HTTP 応答が予期したとおりかどうかを確認します。
4. IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0916E REST ステップが、HTTP 応答で 2xx 以外の状況コードを検出しました。

説明: HTTP 応答内の状況コードの先頭文字が数値 2 ではないため、この状況コードは HTTP サーバーからのエラーを示している可能性があります。

ユーザーの処置: InfoSphere DataStage ジョブが呼び出した REST サービスが失敗した可能性があります。以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
4. すべてのジョブ・ログを収集します。
5. 名前にストリング `_org.apache.http.wire_` が含まれているトレース・ファイルを探して、HTTP サーバーによって返された HTTP 応答が予期したとおりであるかどうかを確認します。

CDIER0917E REST ステップは、HTTP 応答内の本体をテキスト・ストリングに変換できません。原因={エラーの原因}。

説明: REST ステップが、示された理由で HTTP 本体をテキスト・ストリングに変換できませんでした。

ユーザーの処置: InfoSphere DataStage ジョブが呼び出した REST サービスは、テキスト・ストリングを返さない場合があります。受信するデータを確認できるように、「応答」ページで HTTP 本体がファイルとして保存されるようにしてください。

CDIER0918E REST ステップが互換性のないコンテンツ・タイプを検出しました。

説明: HTTP 応答内のコンテンツ・タイプに、「応答」ページで指定されたコンテンツ・タイプとの互換性はありません。

ユーザーの処置: 「応答」で指定されるコンテンツ・タイプが、HTTP 応答内のコンテンツ・タイプと一致するようにしてください。

CDIER0919E REST ステップは、サイズが {実際のデータ・サイズ} の、サポートされるサイズ制限 {データ・サイズの最大制限} を超える HTTP 本体を検出しました。

説明: HTTP 本体に指定されたサイズが、サポートされる最大サイズより大きくなっています。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、「ログ・レベル」プロパティを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. ジョブ・ログを収集して IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、機能拡張を要求してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0920E REST ステップは、HTTP 本体を保存するための出力ディレクトリーの名前に無効な NULL 値が含まれていることを検出しました。

説明: HTTP 本体ファイルを保存するために指定された出力ディレクトリーの名前に、無効な NULL 値が含まれています。

ユーザーの処置: 「応答」ページで、出力ディレクトリーに対して有効な値を指定するようにしてください。

CDIER0921E REST ステップはファイル {ファイル名} を削除できません。

説明: REST ステップは、指定されたファイルを削除できません。

ユーザーの処置: REST ステップが含まれているジョブを実行する InfoSphere DataStage ユーザーが、「応答」ページで指定された出力ディレクトリーおよびそのディレクトリー内のファイルに対するアクセス権を持っていることを確認してください。

CDIER0922E REST ステップは、HTTP 本体を保存するための出力ディレクトリーが無効であることを検出しました。

説明: 「応答」ページで指定された出力ディレクトリーが無効です。

ユーザーの処置: 出力ディレクトリーが有効であること、および REST ステップが含まれているジョブを実行する InfoSphere DataStage ユーザーがその出力ディレクトリーに対する書き込み権限を持っていることを確認してください。

CDIER0923E REST ステップは、不可能なコード・パスに到達しました。

説明: REST ステップが、ステップの構成方法と矛盾する操作を完了しました。例えば、HTTP 本体をファイルとして保存する REST ステップを構成したとします。このエラーは、REST ステップが代わりに HTTP 本体のラージ・オブジェクト参照を生成した場合に、生成される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. すべてのジョブ・ログを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0924E REST ステップは、HTTP 本体の文字セットを判別できません。

説明: デフォルトでは、REST ステップは HTTP 本体をテキスト・ストリングとして保存します。しかし、REST ストリングは HTTP 本体の文字セットを判別できません。

ユーザーの処置: 「応答」ページで、データに適切な HTTP 本体保存オプションを選択します。HTTP 本体は、バイナリー・データ項目、ファイル、ラージ・オブジェクト、またはテキスト・ストリングとして保存できます。

CDIER0925E REST ステップは、HTTP 本体内に無効な XML データを検出しました。

説明: HTTP 本体には、有効な XML データが含まれている必要があります。REST ステップは、HTTP 本体内のコンテンツ・タイプとデータに基づいて、データが有効な XML データかどうかを判別できません。

ユーザーの処置: InfoSphere DataStage ジョブが呼び出した REST サービスは、予期しないデータを返した可能性があります。以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. すべてのジョブ・ログを収集し、名前にストリング `_org.apache.http.wire_` が含まれているトレース・ファイルを探して、HTTP サーバーによって返された HTTP 応答に予期したコンテンツ・タイプとデータが含まれているかどうかを確認します。

CDIER0928E REST ステップが HTTP 本体を読み取ることができません。

説明: REST ステップが HTTP 本体を読み取ることができません。HTTP データ・パッケージに 1 つ以上の問題がある可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. すべてのジョブ・ログを収集します。
4. 名前にストリング `_org.apache.http.wire_` が含まれているトレース・ファイルを探して、HTTP サーバーによって返された HTTP 応答に予期したコンテンツ・タイプとデータが含まれているかどうかを確認します。

CDIER0929E HTTP Content-Encoding ヘッダーに指定されたアルゴリズム {Content-Encoding ヘッダー値} は、REST ステップでサポートされません。

説明: REST ステップでは、Content-Encoding ヘッダーに指定されたアルゴリズムはサポートされません。

REST サーバーは Accept-Encoding HTTP 要求ヘッダーを無視して、サポートされない圧縮アルゴリズムでデータを送信する場合があります。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. すべてのジョブ・ログを収集します。
4. 名前にストリング `_org.apache.http.wire_` が含まれているトレース・ファイルを探して、HTTP サーバーによって返された HTTP 応答に予期したコンテンツ・タイプとデータが含まれているかどうかを確認します。

CDIER0941E REST ステップが、REST ランタイム接続オブジェクトの作成時にクラス {クラス名} の NULL オブジェクトを検出しました。

説明: REST ステップが、ランタイム接続オブジェクトの作成時に無効な NULL 値を検出しました。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. トレース情報がログに記録されるようにジョブを再度実行します。
3. ジョブ・ログを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、IBM Knowledge Center で InfoSphere Information Server のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

CDIER0942E REST ステップがセキュア・ソケットを作成できません。原因={エラーの原因}

説明: REST ステップが、示された理由で SSL セキュア・ソケットを作成できません。

ユーザーの処置: REST ステップの「セキュリティー」ページで、SSL 設定が正しいことを確認してください。

CDIER0943E REST ステップは、エラーの原因になっている無効な URL {無効な URL} を検出しました。{エラーの原因}。

説明: REST ステップは、指定された URL を使用して REST サービスを呼び出すことができません。

ユーザーの処置: REST ステップの「一般」ページで、正しい URL を「再利用可能な接続」フィールドまたは「URL」フィールドに指定するようにしてください。

CDIER0944E ステップがローカル・ホスト名を取得できません。原因={0}

説明: REST ステップが、示された理由でローカル・ホスト名を取得できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に関する情報を使用して、問題を修正してください

CDIER0945E REST ステップが無効なプロキシ・ポート {0} を検出しました。

説明: 指定されたプロキシ・ポートが無効です。

ユーザーの処置: 「プロキシ構成」ウィンドウで、有効なプロキシ・ポートを指定するようにしてください。

CDIER0961E REST ステップが REST サービスを呼び出すことができません。

説明: 以下の 1 つ以上の理由で、REST ステップが REST サービスを呼び出すことができません。

- 接続またはネットワークが使用不可です。
- REST ステップが呼び出したサービスが使用不可です。
- REST サービスを呼び出すように REST セキュリティー・メカニズムが設定されていません。

ユーザーの処置: この問題を診断するには、以下のステップを実行します。

1. Hierarchical Data ステージで、ロギングを可能にし、ロギング・レベルを「トレース」に設定します。
2. すべてのジョブ・ログを収集します。
3. 名前にストリング `_org.apache.http.wire_` が含まれているトレース・ファイルを探して、HTTP サーバーによって返された HTTP 応答に予期したコンテンツ・タイプとデータが含まれているかどうかを確認します。

この問題を診断するには、以下のステップを 1 つ以上実行してください。

- 接続またはネットワークが使用可能であることを確認してください。
- REST ステップが呼び出したサービスが使用可能であることを確認してください。
- REST サービスを呼び出すように REST セキュリティー・メカニズムを構成します。

付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM® 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

アクセシビリティ対応資料

インフォメーション・センターには、InfoSphere Information Server 製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。インフォメーション・センターでは、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。インフォメーション・センターでは XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

インフォメーション・センターにある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。

付録 B. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表1. IBM リソース

リソース	説明と場所
IBM サポート・ポータル	サポート情報は、 www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。
ソフトウェア・サービス	ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja にアクセスしてください。
My IBM	www.ibm.com/account/jp/ja/ の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。
研修と認定	個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 http://www.ibm.com/training にアクセスしてください。
IBM 担当員	ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 www.ibm.com/connect/ibm/us/en/ にアクセスしてください。

付録 C. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

注: F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html

ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc/⇒  
common/accessingiidoc.html
```

ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

Windows

```
IS_install_path\ASBServer\bin\iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター `server1.example.com` 上の URL 値は、`http://server1.example.com:8888/help/topic/` になります。

PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 <https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1> からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには <http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> の IBM Publications Center にアクセスしてください。

付録 D. ご意見の送付方法

IBM 資料に関するご意見をお寄せください。

お客様のフィードバックは IBM が提供する情報の品質向上に役立ちます。以下のいずれかの方法でご意見をお寄せいただくことができます。

- IBM の Web サイトでホストされている IBM Knowledge Center にあるトピックについてコメントをお寄せいただく場合は、サインインし、トピックの下部にある「コメントの追加」ボタンをクリックしてコメントを追加します。このようにして送信されたコメントは、一般に公開されます。
- IBM Knowledge Center にあるトピックについてのコメントを非公開でお寄せいただく場合は、サインインして、IBM Knowledge Center の下部にある「フィードバック」リンクをクリックします。
- オンラインのご意見記入フォーム (www.ibm.com/software/awdtools/rcf/) を使用してコメントを送信します。
- コメントを E メールで comments@us.ibm.com に送信します。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、資料の名前と部品番号 (該当する場合) を記載してください。特定のテキストに関するご意見である場合は、そのテキストの位置 (タイトル、表番号、ページ番号など) を記入してください。

特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用する場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Metadata Asset Manager	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 拡張されたユーザーのユーザビリティ シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere DataStage	Big Data File ステージ	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 デジタル署名 セッション ID 	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere DataStage	XML ステージ	セッション	内部 ID	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere DataStage	IBM InfoSphere DataStage and QualityStage Operations Console	セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Data Click	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Data Quality Console		セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Information Governance Catalog		<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 内部 ID ツリーの状態 	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere Information Analyzer	InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ	セッション	セッション ID	セッション管理	無効にできない

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ

ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

お客様サポート
連絡先 21

[サ行]

サポート
お客様 21
商標
リスト 27
製品資料
アクセス 23
製品のアクセシビリティ
アクセシビリティ 19
ソフトウェア・サービス
連絡先 21

[タ行]

特記事項 27

[マ行]

メッセージ・リファレンス
Hierarchical Data ステージ 1



Printed in Japan

SC43-0905-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21